

R5 開始

10 やまがたし 山形市（山形県）

～主な品目～
野菜（じゃがいも）

実施体制

山形市、西藏王野菜生産組合、J Aやまがた 等

面積情報

有機農業取組面積：0 a 耕地面積に占める割合：0.0 %

（令和3年度時点）



1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大 R4年度 0 a → R10年度 25 a

有機農業に取り組む農業者数の増加 R4年度 0 人 → R10年度 3 人

2 有機農業を拡大していく上での課題

山形市の農業の現状は、農業就業人口が2,651人、耕地面積が5,110 ha（農林業センサス、山形農林水産統計から）であり、エコファーマーの認定者数は153人であるが、有機JASの認証者、有機農業の実践者は0人である。

拡大をはばむ雑草の紹介

- ・アカザ（夏季間）
短期間で1mを超える草丈に成長
- 【対策】
農福連携の
人材による除草

7月中旬の状況▶
8月中旬で草丈
1mに成長



3 課題に対する取組のポイント・成果

山形市が実施主体となり、有機栽培の検証を行うため、委託業務にて「有機栽培実証圃」を設置した。

【取組による定量的な成果】

有機面積拡大 R4：0 a → R5：10 a



◀有機栽培実証圃 10 a

◀収穫した
じゃがいも

ポイントとなる導入技術

- ・うね立て機による除草作業の検証を行う
- ・収量の安定化を見込んだ男爵以外の品種の導入
- ・じゃがいもの連作障害対策も兼ねた他作物の有機栽培

4 主な取組内容

①生産

学校給食へ野菜（減農薬栽培）の納入実績を有する「西藏王野菜生産組合」に事業を委託し、「有機栽培実証圃」において野菜（じゃがいも）を栽培。

- ・じゃがいも（男爵）の収穫量 1,140 kg
- ・除草、収穫作業に農福連携による人材を活用
- ・地元「J Aやまがた」の堆肥を活用の他、有機栽培に使用できる資材は、J Aやまがたが調査のうえ調達

②加工・流通・消費

実証圃で収穫したじゃがいもは、山形市学校給食センターで給食に調理のうえ市内小中学校の児童・生徒に提供。あわせて有機栽培の啓発を行った。

- ・規格等選別後770 kgを学校給食へ納入（J Aやまがた協力）
- ・市立中学校15校で給食を提供 1回【献立】じゃが豚キムチ
- ・市立小学校35校で給食を提供 1回【献立】じゃがいもの五目煮
- ・小学生と生産者の「給食を食べる会」を実施 1回

給食を食べる会▶



◀小学校給食

